



パーベキューを囲んでワインを楽しむ皆さん

### 夢を語りながら飲んでほしい—— 5年目を迎えた内子夢ワイン祭り

「第5回内子夢ワイン祭り」(同実行委員会主催、一柳清志<sup>きよし</sup>会長)は4月16・17日の両日、観光ふじブドウ園で開かれました。内子町内外から訪れたワインファンの皆さんは、内子産の食材を使ったパーベキューを楽しみながら、ワインを味わっていました。また16日には、ワイン祭り5周年を記念して作られた「内子夢わいん音頭」が初披露され、会場を盛り上げました。



来場者に作品の説明をする成田さん(左)

### 職人たちのこだわりの作品を披露 「暮らしの中の手仕事展」

「第21回暮らしの中の手仕事展」(五十崎商工連盟<sup>さちご</sup>主催、成田幸子委員長)は4月2・3の両日、五十崎風博物館で開かれました。職人たちが陶器や和紙製品など約500点を出展し、作品の魅力やこだわりを伝えました。成田委員長は「それぞれの職人の新作など、素材の良さが伝わる作品が充実してきた。和紙楽器、折紙の雛飾りの特別展示も好評だった」と喜びました。



赤ちゃんの幸せを願って、集中するお父さん

### 「大空高く飛んでほしい」の願いを込めて いかざき大風合戦「出世風」の名前書き

5月5日のいかざき大風合戦に揚げる「出世風」の名前書きが4月10日、共生館で行われ、町内外から121組みの家族が参加しました。出世風は初節句を迎える赤ちゃんの健やかな成長を祈願するために、昭和45年から始まったとされています。3回目の参加というお母さんは「力強く書くと、揚がったときの見栄えがいい」と話しながら、心を込めて赤ちゃんの名前を書いていました。



観覧客も参加して盛り上がる「ご当地俳句バトル」

### 内子の魅力を俳句で全国に発信 NHK「俳句王国がゆく」を内子座で収録

Eテレ番組「俳句王国がゆく」の公開収録が4月23日、内子座で行われました。まちの魅力を俳句で紹介する番組で、地元チームと俳句王国チームが俳句の出来を競います。「和ろうそく」のお題の勝負では、女優の宮本真希<sup>まき</sup>さんが炎の艶っぽさを俳句で表現。初戦から好勝負になり会場が沸きました。なお番組は5月15日(日)午後3時から放送される予定です。ぜひご覧ください。

### さくら祭り

春の桜が見頃を迎えた3月下旬から4月上旬、内子町内各地で春の訪れを満喫できる祭りが開かれました。

龍王公園では3月27日、「龍王さくらまつり」(フィットネスクラブRYUOW<sup>リュウオウ</sup>、オーベルジュ内子主催)が開かれました。RYUOWスタッフによる余興やキーワードラリーなどさまざまな催しが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。会場の桜は三分咲きでしたが、子どもたちのかわいらしいフラダンスが祭りに花を添えました。

小田・立石地区では4月2・3日の両日、「立石まるごと春まつり」(立石愛隣会<sup>たけし</sup>主催、山内毅会長)が、尾首の池・相野の花の両会場で開催されました。尾首の池会場では2日の夜、美しく照らされた夜桜の下で内子町指定無形文化財の立川神楽保存会が、伝統の舞を披露。山内会長は「神楽が見られるとあって、大勢の人に来てもらった。桜も満開で最高の祭りになった」とうれしそうに話していました。

樹齢350年を越えるとされるしだれ桜で有名な石畳地区では4月2・3日の両日、「石畳東のシダレザクラ祭り」(同実行委員会主催、福本琢也<sup>たくや</sup>実行委員長)を開催。参加者は、四方に美しく垂れ下がった桜を眺めながら、名物の手打ちそばに舌鼓を打っていました。

その他、城廻地区や上川地区などでも祭りが開かれ、多くの人が春の訪れを楽しんでいました。

1\_尾首の池で披露された立川神楽 2\_城廻地区「四季の詩公園」の桜祭り 3\_山あいの集落を彩る「野村のシダレザクラ」は若い女性にも人気 4\_ライトアップされた「相野の花」 5\_龍王さくらまつり。地元のフラダンスチームが集って練習の成果を披露 6\_石畳地区の東のシダレザクラを見ようと、多くの人が訪れた



### 川で遊んで自然を学ぼう 知清河原でかじか漁体験

えひめいやしの南予博の体験企画「第1回かじか漁体験ツアー」(うちこグリーンツーリズム協会主催)が4月2・3の両日、知清河原などで行われました。参加者はサザエの殻と竹を通した縄でかじかを網に追い込む「がら引き漁」を体験。道具の扱いや捕れやすい場所を探すのに苦労していましたが、こつをつかんでからは、体長3~10センチほどのかじかをたくさん捕っていました。同協会では今後、ウナギやアユ漁体験なども行う予定です。



がら引き漁をする参加者